

全ト協◆実証実験

健診情報データベース化

OCHISが請け負い

全日本トラック協会(星野良二会長)は、トラック運転者の健康起因事故の防止を目指し、運転者の健康

状態が分かるシステム構築に向けた実証実験を行う。運転者の健康診断の情報をデータベース化すること

で、事故の危険性の高さを把握できたり、再検査や精密検査の受診指導を受けられたりする。40社、2千人

を対象に、10月31日まで参加事業者を募集。11月30日まで随時、事業を実施する。

NPO(非営利組織)法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長)が事業を請け負う。

「運輸ヘルスケアナビシステム」を構築し、運転者の健診情報の項目や睡眠時無呼吸症候群(SAS)、

残業時間、事故歴などの情報をデータベース化。心筋梗塞や脳梗塞、SASなどの発生率が一覧で分かるため、事業者は健康起因事故の危険性が高い運転者の早期発見につなげられる。

このため、点呼時の活用も見込めるとともに、OCHISによる助言・指導を受けられる。

(土屋太朗)